

5. 教 育

博士課程前期第6回修了（2003年3月）

数理・物性構造科学専攻（修了6名）

氏 名	論 文 題 目	指 導 教 員
入 江 梓	LCST型相図をもつメチルセルロース水溶液の相分離挙動	高 橋 雅 江
川 上 直 子	フォトニックネットワークにおける時空間変換を用いた全光ラベル認識に関する研究	小 舘 香椎子
柴 山 由貴子	ニューラルネットワークの研究 Hopfield モデル・Back-propagation 法	小 野 昱 郎
鶴 切 恵 美	スパッタリング法を用いた酸化物高温超伝導薄膜の作製に関する研究	黒 沢 格
長谷川 環	語彙数の推定問題	杉 浦 成 昭
林 つぐみ	GaN系半導体におけるキャリア輸送解析の研究	吉 井 彰

物質・生物機能科学専攻（修了6名）

氏 名	論 文 題 目	指 導 教 員
藤 田 圭 子	ICP-MSによる石炭試料中微量元素の分析化学的・環境化学的研究	蟻 川 芳 子
豊 島 祐 子	ベンゾフェノンケチルラジカルー脂肪族アミン錯体の生成と再結合反応速度	小 尾 欣 一
竹 内 真由美	かさ高いボウル型有機ケイ素化合物の合成、構造および反応	岡 崎 廉 治
安 嶋 久美子	チューブリン重合阻害剤による分裂酵母の細胞壁形成に及ぼす影響	大 隅 正 子
中 村 江利子 (須坂)	アオリイカにおけるボディーパターンの機能と発達に関する行動学的研究	木 村 武 二
山 本 藍	コウノトリの clattering における音響構造の雌雄差	木 村 武 二

5. 4. 3 論文博士

年 月	氏 名	論 文 題 目	指 導 教 員
2002. 3	釜 澤 尚 美	酵母ペルオキシソームの生合成に関する超微構造学的研究	大 隅 正 子
2003. 3	佐 藤 眞美子	酵母細胞の高圧ストレス応答に関する微細構造学的研究	
2003. 3	中 村 睦	ルーメン細菌における、プラスミド解析をもとにしたホスト・ベクター系の開発と、キシラナーゼ遺伝子の発現に関する研究	

5. 5 留学生

理学部発足からの協定大学・認定大学への留学生は、
以下のとおりである。（協定大学留学および認定大学留

学については下記の注を参照）

5. 5. 1 協定大学留学

年度	学科	氏名	留学先大学	留学期間
1997	数物科学科	石 井 秀 実	Marymount College	1997. 8 ~ 1998. 6
1998	物質生物科学科	周 藤 真理子	Marymount College	1998. 8 ~ 1999. 5
1999	数物科学科	斎 藤 園 江	Marymount College	1999. 8 ~ 2000. 5
2000	物質生物科学科	三 木 弘 子	Wellesley College	2000. 8 ~ 2001. 5
	物質生物科学科	山 本 千香子	The University of Bristol	2000. 6 ~ 2001. 5
2001	物質生物科学科	小 林 寿 美	The University of Bristol	2001. 6 ~ 2002. 6

5. 5. 2 認定大学留学

年度	学科	氏名	留学先大学	留学期間
1999	物質生物科学科	松 永 理 乃	Johns Hopkins University	1999. 9 ~ 2000. 5

注)

協定大学留学 本学が協定を結んだ大学への留学をいう。留学に関する審査は本学で行われ、1年を限度として留学期間が本学の在学期間に算入される。また30単位を限度として、留学先での取得単位が本学の単位として認定できる。協定留学の場合は、学費を本学で納め、留学先では免除となる。協定大学は2002年4月の時点で海

外5カ国12大学である。

認定大学留学 本人が選択し志望した留学先大学を、事前に本学に申請して承認された留学をいう。1年を限度として留学期間が本学の在籍期間に算入される。また30単位を限度として、留学先での取得単位が本学の単位として認定できる。

5. 6 理学部における奨学金制度

日本女子大学理学部には、理学部独自の奨学金である、(1) 丹下記念奨学金、(2) 河上サワ記念奨学金および

(3) 日本女子大学理学部奨学金が設けられています。

5. 6. 1 丹下記念奨学金

本奨学金は、ドクトルオブフィロソフィー農学博士丹下ウメ先生(1873~1955)を記念する研究奨励賞として設けられたものであり、辻キヨ著「先覚者丹下先生」の収益金を基とし、学生及び有志(故辻キヨ名誉教授、中村節子名誉教授、村岡全子名誉教授)の寄付を加えて本奨学金の基金として昭和32年5月に規程が制定されました。

5. 6. 2 河上サワ記念奨学金

本奨学金は日本女子大学家政学部家政理学科二部(生物農芸専攻)における故河上サワ名誉教授の学科の発展に尽くされたご功績を記念して設けられたものであります。奨学金の基金は、故河上名誉教授のご遺族の芳志によるものであり、昭和53年4月に制定されました。理学

部設立後、改めて平成7年4月に規程が改訂され、本奨学金は毎年1回2月初めの卒業論文発表会後に理学部数物科学科および物質生物科学科の4年次学生のなかから、学業・人物ともに優秀な学生に授与されています。但し、物質生物科学科の学生の中からは化学分野をテーマに卒業論文を提出した学生に授与されます。

部設立後、改めて平成7年4月に規程が改訂され、本奨学金は毎年1回2月初めの卒業論文発表会後に理学部物質生物科学科の4年次学生の中から、生物分野をテーマに卒業論文を提出した学業・人物ともに優秀な学生に授与されています。